

第8章 生体腎移植における腎提供の既往

1. 調査の背景

わが国において、年間に実施される腎臓移植のほぼ90%が生体腎移植である¹⁸⁾。慢性的なドナー不足のため、高齢や高血圧や糖尿病を持つマージナルドナーからの腎移植も行われている。生体腎移植において、ドナーの安全性は非常に重要である。日本臨床腎移植学会・日本移植学会の報告では腎移植後9年間で透析導入に至ったものは4例と報告されているが、回答率が高くないという問題がある¹⁸⁾。腎移植ドナーの安全性は腎代替療法の選択にも影響を与える。このため、2019年から慢性維持透析患者を対象に、患者自身が過去に腎移植ドナーとして自身の腎臓を提供した既往があるか否かの調査を開始した。

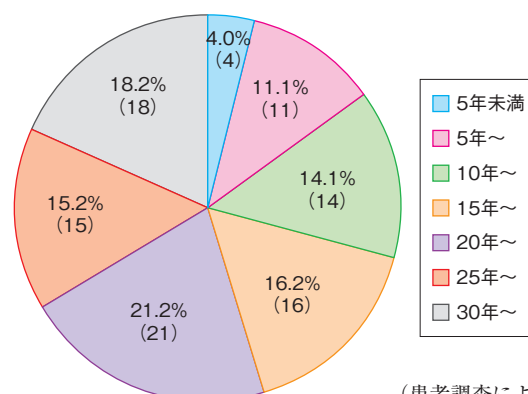
2019年調査は腎提供に関して初めての調査だったため、なんらかの誤解をして回答された患者が含まれた可能性がある。そのため2020年調査では腎提供に既往ありと回答があった全施設に、腎提供の有無、腎提供年月の回答に間違いはないか問い合わせを行った。今回の2022年調査では、前年調査で確認した施設以外の、新規に腎提供に既往ありと回答があった全施設に、腎提供の有無、腎提供年月の回答に間違いはないか問い合わせを行った。2022年調査で新規に腎提供の既往ありと記載のあった76施設81人のうち全施設から回答が得られ、既往なしが57人、既往ありが23人、不明が1人であった。

2. 腎提供の有無

2022年末に慢性維持透析を行っている334,653人のうち、233,501人（69.8%）において腎提供の有無に回答が得られた。この233,501人のうち110人（0.047%）が腎移植ドナーとして腎提供ありで、2021年末より5人減少していた（補足表53）。

3. 腎提供から透析導入までの期間

腎提供年月または腎提供年は110人のうち99人（90.0%）において回答が得られた。腎提供から透析導入までの期間の平均は20年9ヵ月（±9年7ヵ月、標準偏差）であった。ただし、99人中54人において腎提供月が不明であったため、この54人の腎提供が行われた暦月を便宜的にすべてその年の6月と仮定して計算した。腎提供から透析導入までが5年未満だったものが4人（4.0%）、5年以上10年未満だったものが11人（11.1%）であった（図47、補足表54）。2021年末は5年未満だったものが4人（3.8%）、5年以上10年未満だったものが12人（11.4%）であったため、2022年末も同様の傾向であると思われる。



（患者調査による集計）

図 47 腎提供ありの患者 腎提供から透析導入までの期間，2022

4. 腎提供年と腎提供から透析導入までの期間

生体腎移植ドナーのガイドラインとして、2004年のアムステルダムフォーラムガイドライン¹⁹⁾や2014年の日本移植学会と日本臨床腎移植学会合同の生体腎移植ドナーガイドライン²⁰⁾が発表されており、生体腎移植ドナーを取り巻く環境は変わってきている。そのため、腎提供年ごとの腎提供から透析導入までの期間を示した(補足表 55)。本調査は横断研究であるため、古い時代に腎提供を行った後早期に透析導入となった方は、亡くなられている可能性が高いため年代ごとの比較はできない。ただ、ガイドラインが整備されつつあった2011年以降でも、腎提供後から透析導入までの期間が5年未満だったものを3人、5年以上10年未満だったものを3人認めた。